

**令和 8 年度 第 1 回生野区区政会議
くらしの安全・安心部会**

1 開催日時

令和 8 年 5 月 26 日（火） 19 時 00 分～

2 開催場所

生野区役所 6 階 604・605 会議室

3 出席者

（区政会議委員） 8 名

森口委員、長谷川委員、安藤委員、玉井委員、田村委員、渡辺委員、中村（一）委員、幸川委員

（生野区役所） 10 名

齋藤生野区長、大川副区長、宮城総務課長、中條地域まちづくり課長、河野安心まちづくり担当課長、長谷川教育支援担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長、森岡保健福祉課長、藤原子育て支援担当課長、金田区政推進担当課長、保井区政推進担当課長代理

4 議事

（1）令和 7 年度生野区の取組振り返りについて

（2）本日の意見交換の主なテーマ

5 報告

（1）区政に関する意見交換会の開催について

（2）その他

6 配布資料

- ・資料 1 令和 7 年度生野区の取組について～振り返り～
（全体会・各部会共通）
- ・資料 2 本日の意見交換の主なテーマ
- ・資料 3 中学生を対象とした区政に関する意見交換会について
- ・資料 4 「区民わがこと SDGs」の推進にかかる区ごとの SDGs ゴールの選定
- ・参考資料 1 事前にいただいたご質問等と区の考え方、対応

7 会議内容

○金田区政推進担当課長

それでは、皆さま、お待たせいたしました。お時間になりましたので、ただ今から、令和8年度第1回生野区区政会議くらしの安全・安心部会を開催させていただきます。本日はご多用のところ、当会議にご出席いただき、誠にありがとうございます。私は、事務局の生野区役所総務課の金田と申します。着座にて失礼いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

それではまず、本日ご出席の委員の皆さまをご紹介させていただきます。委員名簿の順でお名前をお呼びいたします。

森口委員でございます。

○森口委員

森口です。よろしくお願いいたします。

○金田区政推進担当課長

長谷川委員でございます。

○長谷川委員

長谷川です。よろしくお願いいたします。

○金田区政推進担当課長

安藤委員でございます。

○安藤委員

安藤です。よろしくお願いいたします。

○金田区政推進担当課長

玉井委員でございます。

○玉井委員

玉井です。よろしくお願いいたします。

○金田区政推進担当課長

田村委員でございます。

○田村委員

田村です。よろしくお願いいたします。

○金田区政推進担当課長

渡辺委員でございます。

○渡辺委員

渡辺です。よろしくお願いいたします。

○金田区政推進担当課長

中村委員でございます。

○中村（一）委員

中村です。よろしくお願いいたします。

○金田区政推進担当課長

幸川委員でございます。

○幸川委員

幸川です。よろしくお願いします。

○金田区政推進担当課長

なお、山平委員につきましては、所用により本日ご欠席でございます。

本日の会議は、委員定数9名に対し、8名のご出席があり、定数の2分の1以上の出席にて、有効に成立していることをご報告いたします。

そして、本日の傍聴者は1名となっております。

また、本日は、他の部会からオブザーバーとしてご出席されている委員の方がいらっしゃいますので、ご紹介させていただきます。

こどもの未来部会の西村委員でございます。

○西村委員

こどもの未来部会の西村です。聞かせていただきます。

○金田区政推進担当課長

オブザーバーの方につきましては、部会長から求めがあった場合にご発言いただけることになっておりますので、よろしくお願いいたします。

区政会議に関する本市の規則によりまして、本日出席された委員の方のお名前、発言内容等が公開されます。事務局において会議録を作成しまして、後日、区のホームページ等で公開させていただくほか、会議の様子を収録しまして、後日 YouTube において配信し、どなたでも閲覧できるような形にしていまいりますので、録音や撮影について、ご了承のほどよろしくお願いいたします。

また本日の会議では様々なご意見をいただきたいと考えておりますが、ご発言内容につきましてはお互いを尊重しながら活発な意見交換ができる場となりますようにご配慮をよろしくお願いいたします。

続きまして、本日の資料についてご説明いたします。「令和8年度第1回生野区区政会議くらしの安全・安心部会次第」をご覧ください。

まず、資料1としまして、事前に送付しております「令和8年度第1回生野区区政会議資料 令和7年度生野区の取組について～振り返り～」というA4縦の資料がございます。本日、お持ちでない方はいらっしゃいませんか。では、配らせていただきます。

続きまして、資料2としまして、「本日の意見交換の主なテーマ」というA4横の資料がございます。

次に、資料3としまして、「中学生を対象とした区政に関する意見交換会について」というA4横の資料がございます。

次に、資料4としまして、『区民わがこと SDGs』の推進にかかる区ごとのSDGs

ゴールの選定」という A4 横の資料がございます。

最後に、参考資料 1 としまして、「事前にいただいたご質問等と区の考え方、対応」という A4 横の資料がございます。

資料がお揃いでない場合は、挙手いただければ事務局からお持ちいたします。

それでは、本日の流れをおおまかに説明させていただきます。

議事 1 では、資料 1 の生野区運営方針振り返り、事前にいただいたご質問等と区の考え方を報告し、議事 2 では資料 2 の本日のテーマによる意見交換を行っていただきます。報告 1 では区政に関する意見交換会の開催について、報告 2 「その他」としまして、資料 4 「区民わがこと SDGs のゴール選定」をさせていただきますと思います。

それでは、これからの議事進行につきましては、中村部会長にお願いしたいと思います。中村部会長、よろしくお願いいたします。

○中村（一）委員

部会長の中村です。

ただいまから、令和 8 年度第 1 回くらしの安全・安心部会を開催します。

区政会議は、地域でまちづくり活動を実際に進めている私たちが、行政とともに生野区の課題解決のためどう取り組むべきかを建設的に考える、そういう趣旨の会議となります。よって、委員の皆さまの個人の感想ではなく、生野区全体を主体的に運営する見方に立って、積極的なご発言をお願いできればと思います。

それでは、開催にあたりまして、齋藤区長からご挨拶をお願いします。

○齋藤生野区長

皆さま、こんばんは。生野区長の齋藤でございます。この 4 月から生野区長に就任いたしましたので、どうぞよろしくお願いいたします。

本日はお忙しい中、区政会議のくらしの安全・安心部会にご出席賜りまして本当にありがとうございます。

もう皆さまご存知のところかとは思いますが、区政会議というものの位置付けについて少し紹介させていただきます。

区政会議は条例に基づいて設置されている非常に大切な会議だと認識しております。区における施策・事業について、区民の皆さまからご意見・評価をいただきまして、立案段階から意見を把握し、施策・事業に反映させるとともに、取組の実績や成果の評価に関する意見を頂戴することを目的としている、大切な会議でございます。

中でも、くらしの安全・安心部会のテーマとしては、「防災・防犯」、「地域福祉」、それと「人権・多文化共生」といった非常に広範囲にわたるものですし、特に暮らしに関わる極めて重要なものとなっております。まちづくりを進める

中では、基礎・土台となる非常に大切なテーマだと思います。

先ほど担当課長からも段取りの説明がありましたが、本日は令和7年度の取組の振り返りなどについてご説明させていただきますので、ぜひ忌憚のないご意見をいただきまして、より良い区政に繋げてまいりたいと考えております。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○中村（一）委員

ありがとうございました。

それでは、早速、議事に入りたいと思いますが、限られた時間で円滑に意見交換を進めていただけるよう、ここからは学識委員の幸川委員に会議の進行をお願いしたいと思います。

それでは、幸川委員、よろしくお願いいたします。

○幸川委員

部会長からご指名いただきました幸川です。

これから、皆さまの意見交換のお手伝いをさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、会議の次第に沿いまして、「議事1 令和7年度生野区の取組振り返りについて」及び「議事2 本日の意見交換の主なテーマ」について区役所から説明をお願いいたします。

○保井区政推進担当課長代理

総務課の保井と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、令和7年度の生野区の取組についてご説明いたします。着座にて失礼します。前方のスクリーンをご覧ください。

まず、はじめに「生野区運営方針とは何か」ということについて、簡単にご説明いたします。

生野区運営方針とは、区における「施策の選択と集中」の全体像を示す方針として毎年度策定するものであり、生野区将来ビジョンに向けた毎年度のアクションプランです。下の図をご覧くださいとイメージがしやすいかと思います。生野区のめざす将来像や施策展開の方向性などを示したものが「生野区将来ビジョン」であり、それに向け毎年度のアクションプランとして策定するのが「生野区運営方針」となります。

それでは、「くらしの安全・安心部会」の分野についてご説明いたします。詳しい取組内容につきましては、事前に送付いたしました資料1に記載させていただいておりますが、今回は取組結果を中心にご紹介いたします。前方スライドか、お手元の資料1をご覧ください。

まず、1ページ、経営課題1としまして、「安全・安心を身近に感じて暮らせるまち」です。

戦略 1-1「災害に備えて」としまして、めざす状態を、まち全体で防災活動が積極的に行われ、安全にかつ安心な状況であることや、老朽住宅の自主更新の促進を地域課題とし、自ら活動を担っていく人材が発掘される状態といたしました。

めざす状態を数値化し、アウトカム指標として4項目設定し、これらをめざす状態になるよう、様々な取組を行った結果、ジュニア災害リーダーがいる地域は令和8年度末までの目標となり継続中となりますが、それ以外の3項目は設定数を達成しました。

2ページにうつりまして、具体的な取組としましては、自主防災力の強化をめざし、多様な担い手の参加促進に向け、地域自主防災活動の支援や、災害発生時の的確な対応等の取組を行いました。

次に、3ページ、戦略 1-2「犯罪・事故の防止に向けて」としまして、めざす状態を、まち全体で日頃から防犯意識が高く、犯罪や事故が未然に防止されるよう取り組むことで安全にかつ安心な状況にある状態をめざし取組を進めました。

めざす状態を数値化し、アウトカム指標として3項目設定し、これらをめざす状態になるよう、様々な取組を行った結果、自転車事故件数は前年度に比べ減少しましたが、街頭犯罪発生件数及び特殊詐欺件数の2項目が前年件数より増加しております。

4ページにうつりまして、具体的な取組としまして、交通安全出前講座や動画配信などによる啓発活動をはじめ、地域や警察と連携した一斉パトロールや、駅周辺や商店街等で、警察・地域団体等と協働した啓発活動を実施しました。

続きまして、5ページ、同じく経営課題1「安全・安心を身近に感じて暮らせるまち」地域福祉編になります。

戦略 1-3「ずっと安心して暮らせる環境づくり」としまして、めざす状態を、誰もが安心して暮らせる共生社会をめざして、地域の福祉課題について地域住民と協働し、地域の福祉課題の解決に取り組むとともに、区民一人ひとりが自らの健康づくりに努め、健康寿命が延びている状態としました。

アウトカム指標については3項目を設定し、うち2項目について目標を達成しております。特定健診や各種がん検診の指標については、令和8年度までの目標としておりますが、現在、数値については、各病院からの報告待ちのため測定中となっています。

6ページ、具体的な取組としまして、各種検診の重要性についての積極的な情報提供や受診勧奨などの取組を実施しました。

続きましても地域福祉編ですが、7ページ、戦略 1-4「ひとりも取りこぼさない支援を」としまして、めざす状態を、支援を必要とする全ての人々が、一人ひとり社会全体とつながりを持ちながら健やかに暮らせることができる状態をめ

ざし取組を進めました。

アウトカム指標につきましては、福祉コーディネーターの相談件数を前年度以上とし、会議での周知や様々な支援、啓発を実施した結果、前年度を上回ることができました。

8 ページは、その具体的取組の内容を記載しております。真に支援が必要な方への確実な対応として「総合的な支援調整の場」の開催や、貧困の連鎖を断ち切るための支援としまして「いくの塾」などを実施しました。

9 ページにうつりまして、戦略 1-5「すべての人々の人権を互いに尊重し認めあえる環境づくり」としまして、めざす状態を区民参加・参画による人権課題の解決に向けた施策の展開により、すべての人々の人権が尊重され、日常的に地域社会の一員として暮らすことができている状態としました。

アウトカム指標については、2 項目を設定しており、各種講座でのアンケートにおいて、人権が尊重されていると感じる方などの回答割合を指標設定しておりますが、人権講座や啓発、情報発信などによる取組で、令和 6 年度に引き続き令和 7 年度実績でも目標を達成しております。

10 ページ、具体的取組としましては、人権が尊重され、地域に根差した啓発活動として紫陽花まつりで人権啓発や、地域人権講座を開催しました。

以上が令和 7 年度の生野区運営方針の振り返りになります。

次に事前にいただいた、ご質問と区の考え方、対応について説明させていただきます。

スライドはございませんので、右上に「参考資料 1」と書かれた資料をご覧ください。

二つ、事前にご質問いただいております。くらしの安全・安心部会の長谷川委員よりご質問です。「各まちづくり協議会への指導について」ということで、「ホームページに掲載されているまちづくり協議会の活動で各協議会のホームページが更新されていないものが大半ですが指導・推進はしていますか。また、防災・防犯のところにある防災マップも古いものが多いですが指導はしていますか。」というご質問に対しまして、区の考え方、対応でございますが、「区役所では、自律的な地域運営の仕組みであるまちづくり協議会を、中間支援組織（まちづくりセンター）を活用しながら支援しています。地域自ら取り組む広報活動についても、地域の実情に応じて助言を行うなど、引き続き支援を進めてまいります。また、防災マップについては、地域と区役所が連携しながら作成しております。今後も、地域との連携を継続しながら進めてまいります。」という回答をさせていただきます。

続きまして二つ目、こどもの未来部会の足立委員からのご質問でございます。生野工業高校の跡地につきましては、「元は市立だった生野工業高校は、大阪府に

移管、無償譲渡された。しかしながら、高校再編の対象校となり、募集停止等を行っている。当初の譲渡の前提である『高校用途としての継続利用』ではなくなる。大阪府が保有、処分するのではなく、跡地については地域住民の意向を聞き取り、防災拠点とするなど地域の安心安全に暮らせるまちづくりに活用できるように生野区が主体的に大阪市・大阪府に働きかけるべきではないか。」というご質問に対しまして、区の考え方、対応ですが、「大阪府立生野工業高等学校については、令和8年度末をもって閉校となり、その後は『大阪市立の高等学校等の大阪府への移管に伴う譲渡財産の取扱いの基本的な考え方』に基づき、大阪府において売却することを基本としています。生野区役所では周辺住民の声をとりまとめ、売却にあたっては購入者を学校教育法に基づく学校とし、災害時の避難所として地域と連携・協力すること、閉校後は、防犯の観点からも速やかに売却手続きを進めていただくよう、大阪府教育庁に対して要望書を提出しています。閉校後については、市会における議論、生野区役所からの要望も踏まえつつ、府市教育委員会のプロジェクトチーム会議において協議が進められることとなっています。」という回答をさせていただきます。

以上が事前にいただいたご質問等の区の考え方、対応になります。

続きまして資料2になります。議事2「本日の意見交換の主なテーマ」でござります。お手元の資料2かスクリーンをご覧ください。

令和6年度からテーマを設定し意見交換を行っております。引き続き、今年度もテーマを設定し、皆さまのご意見をお伺いしたいのでお願いします。

本日、特にご意見やアイデアをいただきたいことは、さきほど説明させていただいた、令和7年度の運営方針の振り返りにおいて、「災害に備えて」の取組で、生野区としまして、防災面や住環境面で課題のある区域特性に加え、地域自主防災の担い手が固定化する傾向にあり、災害時に機能する自主防災活動への支援や、災害発生時の避難行動の実効性を高めるための仕組みづくりが課題であると認識しております。地域自主防災力を強化していくにあたっては地域での防災訓練が効果的と考えるが、地域自主防災組織の担い手が固定化する傾向にあり、今後担い手不足が懸念されるため、防災訓練以外で地域自主防災力を強化するには、地域としてどのような取組が効果的であるか、皆さまのご意見をお伺いしたいと存じます。

実現の可否を問わず自由にご意見いただければと考えております。どうぞよろしく願いいたします。

○幸川委員

ありがとうございました。ただいま、区役所からご説明がありましたが、意見交換を始める前に、事務局からの説明について、何かご質問などはございませんか。

なお、ご発言いただく際には、挙手のうえ、お名前を述べていただきますよう、ご協力をお願いいたします。

また、さきほど部会長からお話がありましたが、ご発言は委員のみなさまの個人の感想ではなく、生野区全体を主体的に運営する見方に立って、積極的なご発言及びお互いを尊重する発言をお願いできればと思います。委員の皆さまご意見等ございますか。

○長谷川委員

長谷川です。

宿題で出させていただいた分の回答をお聞きしたのですが、納得全然いかないです。外部へ委託されるというのはわかるのですが。当初我々がホームページを作るときには懇切丁寧に指導していただきました。ありがとうございました。私たちの鶴橋地区では4名ほど参加して、現在は私だけしか残っていないのですが、全然フォローがありません。だから、わからない時にこちらからまちづくりセンターへ電話して、いろいろとやってもらっているのですが、自分でこうやっていかないとなかなかついていきにくいですね。現在、19の連合のホームページを見たのですが、全然更新されていないところが大半です。うちも更新していないのですが、行事予定だけは更新しているのと、ちょっとしたコメントを毎月掲載していて、それは割と反応があります。

担当の人もコロコロ変わっていますし、昔の担当の方にも今電話したりしてやっているんですけどね。我々の鶴橋会館には専属の担当者がいるのですが、全然ノータッチですね。やっぱりノータッチということは、全然フォローされていないということだろうと思います。見ている人は見ているので、その辺もちょっとフォローしてほしいと思います。

それと防災マップですが、これも10年ほど前に一生懸命やったのですが、そのままですね。消火栓の位置などもだいぶ変わっていますので、またいろいろと指導していただきたいと思います。お願いします。

○幸川委員

長谷川委員、ありがとうございます。

○中村（一）委員

中村です。

生野区はやはり外国人の方が多い地域というのもあって、普段まちなかを歩いても、多言語表記が少ないなとちょっと思っております。通常の道路にあるようなものとか、お店の案内などを含めて、何かしらまち全体でもう少し多言語表記していけるような取組に誘導していただけたらと感じております。

○幸川委員

ありがとうございます。他には、委員の皆さま何かご意見等ありますか。

よろしいでしょうか。では、長谷川委員の質問に対して、区役所の方からお答えいただければと思います。

○中條地域まちづくり課長

地域まちづくり課長の中條と申します。

事前回答は地域まちづくり課の方で作成させていただきました。

回答の方にも記載させていただいておりますが、基本的にはまちづくりセンターが各まちづくり協議会の取組を支援するという形ではありますが、現に地域の方でそのホームページの更新をどうしていくかというところにお困りだということについて、フォローアップが足りないのではないかというご意見をいただきましたので、私どもの方でも、また、まちづくりセンターの方にも、今いただいた意見も共有させていただき、今後の支援のあり方の参考にさせていただけたらと思っております。

以上でございます。

○幸川委員

ありがとうございます。ぜひよろしくお願いいたします。

他にはいかがでしょうか。

○河野安心まちづくり担当課長

安心まちづくり担当課長の河野です。この4月1日から、生野区でお世話になっております。防災・防犯を担当しております。

長谷川委員からございました防災マップの件ですが、古くなってもう10年ぐらいということで、消火栓や道路の位置など、いろいろな情報が変わっておられると思います。今日いただいた意見をまた持ち帰って、地域の皆さまと防災に關しての意見交換を踏まえてマップをどうしていくかということについてもまたお答えできるように、検討してまいりたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

○幸川委員

ありがとうございます。よろしくお願いいたします。

他、委員の皆さま大丈夫ですか。長谷川委員も大丈夫でしょうか。では次に進ませていただきます。

では、これから委員の皆さままで意見交換を進めていきたいと思っております。今回特にご意見等いただきたいということで区役所から主なテーマをいただいておりますので、テーマに沿って意見を伺っていききたいと思っております。テーマは前の方にも映していただいております。あくまでも委員同士の意見交換ということが進められればと思っておりますので、ちょっと大きなテーマではありますが、まずお1人お1人に聞く前に、ちょっと隣の方同士で意見交換していただいから、またそれぞれのお立場等で話していただいから意見をを出していただい

れば委員同士の意見交換が進められるのではないかと考えております。お隣同士でこのテーマについてお話をしていただき、またテーマ以外のことでもご意見いただいてもいいかと思っておりますので、そのようにちょっと進めていただければと思います。

森口委員と長谷川委員、渡辺委員と玉井委員、安藤委員と田村委員でざっくばらんに意見交換していただけたらと思いますのでよろしくお願いします。

では、5分ぐらい時間を取らせていただきます。

～隣同士での話し合い～

○幸川委員

ではお話が進んでいるようですが、ちょっと切らせていただきます。

それぞれ、お隣同士で意見交換していただきましたが、どんなお話だったのかお聞かせいただけたらと思います。

では、森口委員お願いします。

○森口委員

他愛もない近所話でしたけど。

先ほどの事前質問の中でも長谷川さんから話がありましたが、まちづくりセンターが今年から人数が3名になったというので、1人で大体6校下を持つことになりますから、「やはりなかなか手が回らないですね」という話と、老人憩いの家なので連合振興町会の事務員さんが主にそういった更新をやるのか、また地域でどなたかがそれに専属というか、手伝ってやるのかっていうのもありますから、地域によっていろいろと事情があるんじゃないかということですね。

あとは今度、鶴橋小学校と北鶴橋小学校が一緒になりますから、その見守りのこととか、近所の井戸端会議をさせてもらいました。ありがとうございます。

○幸川委員

ありがとうございます。

○渡辺委員

異南の渡辺です。

○玉井委員

北異の玉井です。

○渡辺委員

2人で少しお話しさせていただいた中で、一応異南のまちづくり協議会の話を聞いてきましたので、その話をしました。方針として、この6月28日にうちの地域で防災訓練を行います。その時に、去年ぐらいからやっているのですが、

家の前の路地から見えるところに白いタオルをかけてもらうというのを一つのモーションとしてやります。白いタオルをかけている人は、自分は自宅避難ができている人、要するに「助けてもらわなくて大丈夫ですよ」っていう。それをできるだけ徹底しようと。このあいだの2月にやった時も、なかなか皆さんにそれが浸透していなくて。タオルが出ていないということは、助けないといけない場所に当たるわけですね。だから徹底してくれないと助けに行くところがわからないわけなんです。OKのところしかわからないのでね。だから、それを徹底するということを、先ほど長谷川さんがおっしゃっていたホームページとか、そういうものでも本当はちょっと広げたいのですが、それもちゃんとしていないというようなこともあります。ですので、そうやって広げていくと、まちはそれぞれの住民のことを考えて、そういう計画を立てているんだなという、ちょっとプラス意識というか、協力してもらえそうな素地がある程度できるのではないかという期待をしています。

今回、各町会の役員さんが「朝何時までにタオルかけておいてください」というのを回覧で回しているのですが、白タオルをかけていただいた家の数を数えるということと、実はある企業さんに相談したら、試供品として簡易トイレの消臭とか凝固剤の袋、使い方のパンフレットなどを1セットにして、何百という数を提供いただきまして、白いタオルをかけていただいた家にそれを配って回ろうというところまで今話を進めております。こちらの思いとしては使い方のパンフレットも入っておりますので、それで一度使ってみてくださいというのが本心なんですけれども、そういうお話を北巽の玉井さんとさせていただき、玉井委員から、「ちょっとそれを話してください」と言っていたので、お話をさせていただきました。

以上です。

○幸川委員

ありがとうございました。

○安藤委員

東中川の安藤といいます。副部会長の田村委員と話しました。田村委員は巽の方ですね。やはりどちらも似たようなもので、次の世代の担い手不足で、ほとんど見当たらないというような話になって。私の方からすると巽地区は発展著しくて、たくさん新しい世帯が増えているところで、人口も増えているようなので、担い手がいそうなのですが、やはり勤め人の世帯が多くて、なかなか参加してもらえない。共働きで子どもがまだ小さいし、忙しくてとても町会活動できないというような話を田村さんからいただきました。うちと似たような状態です。

私も町会長で防災部長、地域防災リーダーをやっています。地域防災リーダーそのものは高齢化ですが、結構熱心にやっているとは思います。ただ、どうも町

内で外から見るとちょっと存在感が薄いような気がします。

毎年2月に生野区の一斉防災訓練をしています。もう少し“ここに防災リーダーあり”というのを見せられるようなパフォーマンスをもうちょっとやれたらいいなと思います。

お揃いのユニフォームで、例えば仮設トイレを組み立てている様子とか、可搬式ポンプを動かしている様子も皆に見てもらって、やっぱりうちの地域にもあいう人たちがいて、いざとなったら頼りになるんだなというような、もうちょっとパフォーマンスをやりたいとは私は思っています。

○幸川委員

ありがとうございます。隣同士でお話しした内容を今出していただきましたけれども、本当に何かいろいろなアイデアや困っていることなどが出てきたかと思います。白いタオルのお話とか、すごいなと思ってお聞きしておりました。

では委員の皆さま、別の方たちのご意見などを聞いて、何かそれに質問などございましたら、どうですか、ご自由に。もっと聞きたいことであるとか、質問などがございましたら、お願いいたします。

○森口委員

北鶴橋の森口です。よろしくお願いします。

まず、この意見交換のテーマで、「自主防災組織」というのは、防災リーダーのことをある程度指すんですかね。

○河野安心まちづくり担当課長

はい。

○森口委員

そうしましたら、まずこの皆さんも、おそらく防災リーダーになって何十年の方ばかりだと思うのですが、固定化というところで、私はマンパワーというのはもう限界があると思っています。固定化されて当然だと思いますし、今、安藤委員が言われたように、生活スタイルも皆変わってきていますから、新しい人が入ってくるというのはちょっと厳しいと思います。

何回か私がお伝えしているのですが、北鶴橋では防災リーダーは、地域の青少年指導員と青少年福祉委員、民生委員、女性部含めて、防災リーダーとあじさいパートナーになっています。ですから総勢30数名ぐらいの組織になっています。でも、いろいろな肩書きを併用されていますので、どこへ行っても皆さんがいるという、ある意味これも固定化しています。だから、そこまでして防災リーダーの組織をこれ以上大きくしていくのかというのは、私の中では少し疑問があります。

それから、今年度から防災リーダーは生野区からの委嘱を受けてます。委嘱を受けるということは、防災に関する専門性に対して、「地域の皆さんでやってく

ださい」という内容だと私は捉えています。青少年指導員にしても青少年福祉委員にしても委嘱を受けてやっているの、そのように専門的な分野に対して、任を受けたと思っています。今までは「行政がこういうことをやりますから、一緒に各校下さんもやってくださいね」ということでしたが、今度は逆に、各校下さんがオリジナリティを持って防災活動をしていくと。委嘱を受けると、本来ならば活動費として予算が付くはずですが、予算は付いていません。我々、防災リーダーはまちづくり協議会の中の1団体としては活動するのですが、もちろん防災リーダーのユニフォームはあって、防災用のウェアとか靴はいただけてますが、例えば先ほどユニフォームを揃えたいと仰っていましたが、作業着とかを売っているお店に行きますと、刃物や鋭利なものを持っても切れない手袋とかが売っているんですね。でも、私たちは予算がないから、あくまでまちづくり協議会にお金を出して欲しいと言うんですけど、本来なら、委嘱を受けるということは必ず予算がついてくる。青少年指導員で大体8万円から9万円ですかね。やはりそのぐらいの予算は付けていただいて、これだけ防災リーダーという立場を先ほど目立つようにということは、やはりそういうところが絶対必要になってくると思っています。来年度でもいいので、絶対そこは予算を付けていただきたい。

あともう一つ。地域防災と行政とを明確に立場を分ける。行政は行政として発信し、今回委嘱を受けたということは、地域は地域として活動するということをはっきりと分けたらどうかと思っています。例えば、うちの北鶴橋には大体3,300世帯あって、6,000人ぐらい住んでいる方がいらっしゃいますが、防災訓練には大体200人ちょっとしか来られません。3、4%ぐらいです。私はこの時代、その方たちが知ってくれていたらもういいと思っているんです。それ以上増えていったらラッキーだけど、知ってもらうための努力をしようという気は正直あまりありません。というのは、もう皆さん、SNS、スマートフォンやいろいろなところで情報はすぐ取れますので。例えば、避難する時に何が必要かとか、地震が来た時には玄関を開けるとかも、ぱっとスマホで見られる。それこそ今はどうしたらいいかAIがダーッと答えてくれます。もうそんな時代に、このアナログのやり方っていうのは、もう限界にきていると思います。じゃあどうしたらSNSとかそういうことに防災リーダーが絡んでいけるかと言ったら、先ほど行政と地域という分け方と言いましたが、例えば、YouTubeチャンネルで「いくみんなな防災」などというようなチャンネルを作ってもらって、区役所の防災担当が、私たちが最初に習った三角巾の使い方から、基本の知識をずっと流していく。それこそネットで調べれば出るかもしれませんが、生野区役所のYouTubeから発信していることに意義があって、内容をいろいろと考えていただいて発信していただくと。その内容を今度は私たちが地域に持って帰って、「YouTubeで

こういうことやっていたけれども、地域でこういうことをもうちょっと取り組んでみませんか」とか、そういう話し合いで持っていけないとなかなか私たちの立場というのは目立ってこないと思っています。

今日ちょっと DVD を持ってきましたが、先週の日曜日 10 時から NHK で「明日をまもるナビ」という番組がありました。ご存知の方もいらっしゃるかもしれませんが、いわゆる防災と復興に特化した大体 30 分の番組で、たまに観たり、必要なものは録画しているのですが、今回は発酵食品についての回でした。避難した時に、炭水化物の食べ物ばかりが送られてきて、長く避難していると体調を崩してくる方がいらっしゃる。その時にどうしますかって言ったときに発酵食品を作ったらどうかとの話でした。そういうことを生野区役所の YouTube で流していただくと、今度は私たちが「こんな内容が区役所から出ているけど、実際校下に帰ってみんなで一回麴を作ってみませんか」とかいろいろなアイデアが出てくると思います。そういったことで防災リーダーとしての立場を上げていくことと、そういったことをしていると自分もやってみようかな、入ってみようかなというところへアプローチができると思っています。いつも言いますが、大きな塊ではなくて、各連合とか各まちづくり協議会の小さいコミュニティで、小さい要望を吸い上げていかないとなかなかこういう担い手も増えていかないし、身近な方とのコミュニケーションも取れないので、自分たちが今何をやってるのか目立たないとか、そういうことになってしまうので、話が元に戻りますが、防災リーダーとして委嘱を受けた以上は、行政と地域の活動というのを、ちょっと立場として分けていただいて、今年度、来年度の地域防災の強化に繋げていってもらえたらと思います。

○幸川委員

森口委員ありがとうございます。

いろいろとお話ししていただいた中で、アイデアも出てたと思います。

YouTube の区民の防災チャンネルとか、あったらいいのかなと私はちょっと思いつきながら聞いておりましたけれども、いろいろなご意見・アイデアが出ていると思います。他の委員の方はご意見などございませんか。

○中村（一）委員

中村です。

少し教えていただきたいのですが、私は地域の防災のこととか、あまりよくわかっていないところが多いのですが、能登などいろいろな所で災害があった時に、もちろん防災リーダーの方などが活躍されると思うのですが、実際にすごい大災害とか、広範な災害があった時に、それが機能しないことがたくさんあると思うんですね。でもみんな協力して、何とか復興したり、助け合ったりされると思いますが、それができるような要素というのは、区役所側が十分把握されてい

るのだろうかということと、多分人と人の繋がりとかが大事ですというようなことになるのかもしれませんが、それを育むための政策というのを、防災に繋げてどのように考えておられるのか、ちょっと教えていただけたらと思います。

○幸川委員

ありがとうございました。

今の中村部会長からの質問ですが、区役所の方にお願ひできますでしょうか。

○河野安心まちづくり担当課長

ご意見ありがとうございます。河野でございます。貴重な意見をいただきました。冒頭何回もお話ございましたが、今日の主なテーマで書かれています「地域自主防災力」ですね。先ほどお話を聞いていますと、実はステージが三つございまして、「発災前」「発災直後」、それから先ほどおっしゃっていた「避難所運営」のそれぞれで役割が変わってまいります。今特に行政、大阪市が中心的に地域の方とご一緒にさせていただいているのが、発災時の立ち上げ訓練でして、そちらを主にはさせていただいております。自主防災ということで、地域の方と一体となって生野区は毎年2月に防災訓練をさせていただいております。そこでは発災した時の訓練として、区役所では本部の立ち上げ、各地域ではそれぞれのテーマに沿って立ち上げを行いました。訓練時間を言わずに急に始めるなど、準備をしないでわざと発災直後を体感するようなことをしたなどもお聞きしております。そこはいろいろとやっていただくので、今実は事前のことでのお話が多いと思います。

三角巾のお話とか、災害が起こった時にどうするんだということについては、訓練の中で取り入れられるものがあれば我々としても提供をしていきたいと考えておりますし、訓練では避難所の運営まではなかなか実施しにくいところが正直ございますので、今は発災直後の訓練を中心にさせていただいておりますが、地域の要望によっては、そういうこともやってみたいということであれば、我々としても一緒にアイデア出しをしてご協力していきたいと考えております。ステージによって、実は地域の方にお願ひというか、一緒になってやることが変わっていくというのがございまして、なかなか全部一体でやっていくというのは難しいと思いますので、徐々に段階を踏んでやっていきたいと思っております。ご協力よろしくお願ひいたします。

○幸川委員

ありがとうございました。

○中村（一）委員

ありがとうございました。中村です。

仰っていることはすごくよくわかったのですが、やはり防災のことを全く理解していない人間を巻き込んで、防災の活動を三つのステージでやっていこう

と思うにしても、行政側とか防災リーダーの人がイメージしていることと、全くわからないけど「こんなことなら協力できるよ」とか、もしくは助けて欲しいという人がうまく繋がらないイメージが私の中にはあります。だからどういうことをすると皆が助かるのかとか、どういうことをして欲しいのかというのを、行政側や防災リーダーの方々がどうやってわからない人にうまく伝えていただけるのかというのをちょっと教えていただきたかったのですが、そういう視点からは何かご意見いただけますでしょうか。

○河野安心まちづくり担当課長

河野です。すみません、何度も喋らせていただく機会を与えていただきまして。

私は、生野区は初めてですが、実は阪神淡路大震災、それから東北の震災等々の避難所の運営も携わってきた経験もございます。その時に、やはり防災リーダーさんだけということではなくて、まずその避難所にいらっしゃる方の中で自治会的なものを運営していかないといけないと。その先頭に立つていただくのが大阪市の防災リーダーであり、地域の方々。ただ防災リーダーの方も先ほどおっしゃったように、24 時間ずっと働き続けるわけにはいきませんので、初期の立ち上げの運営をすれば、例えば先ほど仰った、お食事の数、どれだけの人がいて、子どもが何人いるとかいう情報を掴んだ上で、この物資とかの話も出てくるんですね。その前に何をさせていただきたいかという、まず人数確認とかそういう初期行動をしていただきたい。そのもっと前、発災前から何をすればいいのかという、仰ったように地域の事情にやっぱり明るい、例えば夜に電気が全部消えても、大体どのエリアがどうだと薄明かりでもわかる。夜中に発災すると、まず一番に防災リーダーさんだけでなく区民の方をお願いしたいのは自らの命を守ることです。まずは助かっていただく。助かるためのいろいろなグッズもございまして、知識もございまして。まず助かっていただく。そこから助かった方々が、今度避難所を運営していくので、そこでノウハウをできるだけ今のうちに訓練で培っていただく。担い手とかの問題は確かにあるんですが、現実問題は発災すれば、その方全員で避難所をまわしていかないといけないということもございまして、その辺のご説明とか広報も、区役所は足らないのかもしれないので、地域の防災リーダーの方に甘えることなく、訓練に来ていただかない方にもご理解いただけるような周知方法をちょっと考えてまいりたいと思っております。よろしく申し上げます。

○幸川委員

ありがとうございました。他に委員の皆さま、何かございましてでしょうか。

○金田区政推進担当課長

すみません。今の話とはまた別の内容ですが、意見交換会の前に中村委員からいただいていた「生野区の多言語表記が少ない。道路などを含めて、まちの中で

もう少し増やしてほしい。」というご意見にお答えできておりませんでした。今、回答させていただいてもよろしいですか。

区役所としても、そういったことを十分に認識しておりまして、「やさしいにほんご話します」などのステッカーをご協力いただいている店舗に貼らせていただいたりして、そういうことで表記しております。これから様々なところで多文化対応できるようにしていきたいところですが、なにぶん予算を付けられるところ、付けられないところがあり、道路・公園になりますと、さらに他の部局との調整もございしますが、そういうことを含め要望はしていきたいと思っております。区役所で何かできることがありましたら、また皆さまのご意見・アイデアをいつでも構いませんので、「こういうことであれば、すぐにできるんじゃないか」などという意見もどんどん言っていただけたら、可能な限り対応したいと考えておりますので、ご協力お願いしたいと思います。

また、やはり増え続ける多国籍の方に対しまして、この5月から区役所4階の広聴・広報窓口に「多文化総合相談窓口」というものを設置しておりますので、そういうところも活用しながら、しっかり対応していきたいと思っておりますので、またご協力よろしくをお願いしたいと思います。

○幸川委員

ありがとうございました。では、委員の皆さま、よろしいでしょうか。

○玉井委員

北巽の玉井です。

先だって、私どもの方も訓練をやってきました。一応時間を伝えて、公園に集まって、それからトランシーバーで連絡して、小学校に集まってきたのですが、実際集まってきて「どうするのか」というところが非常に多かったんです。そんな中で、まずトイレを組み立てようということで、組み立てていくのですが、非常に組み立てにくくて重たくていうことを皆さんぼやきながら、組み立てておりました。私は、もう少し良い方法があるのではないかと考えています。

その後、学校の裏にある備品、備蓄しているものも見に行ったのですが、何かいまひとつわかりにくい面があったように思います。

それから、大勢の人が集まるのに指示命令系統が全然整ってない。誰が指揮してるのかわかりにくいんですね。先ほど、ユニフォームの色を変えるという話も出ておりましたが、まさにこの方法をとっていかざるを得ない。取ってもらいたいと思います。実際に大きな地震があると大半の方が学校に集まるんです。数十年前は、小学校に集まって、「この町会は2年生の教室の2階のどこですよ」というところまで割り振りをしておりました。その時に確かにこれはすごいなと感じたのですが、今はそれも何もしない。ただ「講堂に集まってください。」というだけで、何をしたいのかわからない。これではやはり統制が取れていかな

い。ですから、そういう時は、行政の方が例えば違う色のユニフォームを着ていただいて主だった指示をする。それから防災リーダーはまた違う色を着て指揮をする。婦人部も来ているんですけど何をしたいかわからないから、ぼーっとしている状態だったので、「こういう仕事がありますよ」というようなことをどんどん発信して統制を取っていく方法を考えないと、非常に難しいと思うんです。それから外国の方も多いですから、この方々が来た時にどうするのかという話が出たら、「それはその時に考えましょう」というような話もちょっと出ていましたのでね。これでは本当に大きな震災があって、家が倒壊したら集まるのはもう絶対学校になってくるので、そうすると、これは誰に聞きに行ったらいいのか、誰にお話したらいいのかというのがわかりにくい。何かやはり識別できるものも考えていただきたいなと今回思いました。以上です。

○幸川委員

ご意見ありがとうございました。

○森口委員

北鶴橋の森口です。河野課長からはある意味ちょっとテクニク的なお話をいただいたんです。確かに実際被災地に入られて、その現状を見て帰ってこれているので、そういうところに目がいくと思うのですが、今日のお話でいうと、まず担い手が固定されてるのをどうしていくかという話と、自主防災力を強化するという話は、今、玉井委員も言われましたが、19 校区全部状況が違うんです。何年か前の区政会議でも言った記憶がありますが、金太郎飴のように同じ施策を 19 校下でするのではなく、私のところの北鶴橋が抱えてる問題、巽南さんが抱えてる問題、全部違うんですね。先ほどの話にちょっと戻りますが、それを行政と地域とできちんと立場を分ければ、北鶴橋はこういうところに特化していきましょうとできる。例えば我々の地域は民泊が多くなっています。それから空き家も多くなっています。そういうところでこのような防災訓練していきましょうという、発災するまでのことを“強化”って言うと私は思うので、そういう仕組みをやはり個別に作っていただきたい。でも、私がずっと経験している中で、それを行政に求めても、行政もマンパワーの限界があるから、地域と分けてやりましょうということをこの会議で言っているんです。そのときに、その委嘱ということが出てくるので、先ほども言ったように、委嘱っていうことは、地域防災の専門的なことについて、防災リーダーがリーダーとなって地域とそういうことをやりましょうと。それが、今回のテーマだと思っているので、発災した後、避難所を設営するとかの前の段階で、玉井委員も言われたように、発信力っていうのをどうしていくか。もう一つは私どもの理事長・連長が「北鶴橋の全員が防災リーダーになればいいねん」っていつも仰るんです。私もそれでいいと思います。そのような発想で、誰が来ても完全な形にはならなくても、ある程度の

形にはなれるように情報を発信していく。それをまた各校下が自分たちで工夫して「こうやっていこう」という形に持っていけないと、今回防災リーダーを委嘱したことも意味はないし、それから担い手が固定化するところに人を入れてもこれないし、自主防災力を強化することもできないと思っています。もうこれ30年もやっていることだから、校下に任せるところは校下に任せて、行政がやる場所は行政がやるというように、ある程度はすみ分けしていけないと、我々がやってることが何か誰も理解してくれない。毎回毎回そう思って、多分皆さんもそう思って「避難訓練、また同じことやってるな」みたいな感じで終わってると思います。そこのところはしっかり区役所としても対応というか考えていっていただきたい。その前の話をきちんとしないと次のところには行けないと思います。

それともう一点だけ。少しずれますが先ほど長谷川委員とも話をしていて、見守り隊について、皆さんもお立ちになっておられる方がたくさんいらっしゃると思いますが、今度、北鶴橋小学校も鶴橋小学校と一緒にになります。通学路が遠くなります。でも今は西部地域の学校再編で、かなり遠いところから通学している子どもたちもたくさんいると思います。私どもも疎開道路を渡って、生玉片江線も渡って鶴橋小学校の方へ向かうことになりました。道路を二つぐらい渡ります。鶴橋さんも「もう高齢化していて見守り隊の担い手がないねん」と。私ども北鶴橋も一緒です。これをどうにか増やしていけないといけないのではないかという話がいつも出るのですが、我々はボランティアでやっています。朝と下校時に任意として立っていますが、基本的には自分のお子さんの面倒は親が見るというふうに私はいつも思っていますので、まずそこが前提として、ボランティアとして見守り隊があると思っています。今回その学校再編のことで見守り隊のことをいろいろ考えていると、これはどの組織に入っていて、誰が責任者で、どんな保険に入って、どういうふうにしているかというのが全然見えてこない。鶴橋さんと北鶴橋でも違うんです。見守り隊の人は皆大変だなと思ってるのは、例えば、暑い時に立たれて、倒れられた時にどれだけの保険でその方はどんなふうに病院にかかれたりするかっていうのを皆さんわかって立っているのかということと、その組織として誰が責任を持つのかということと、私が聞いた話では、19校下がバラバラなんです。一つの校下というか、まちづくり協議会でもPTAがやってるところと、地域がやってるところがあったり、そんな状態なんです。だからこれでは「見守り隊に入ってください」と言っても、「もう体が悪いから」と言ってお断りされるケースも出てきますし、いろいろな理由でもう無理だというように仰るんだと思うのですが、一応見守り隊としてはこういう約款でこういう保険も入っていて、時間もこういうことで自由ですから安心して立ってくださいと、子どものために見守ってやってくださいというふう

に言えるんじゃないかというふうに思っています。

そのあたり、例えば怪我もそうですし、車・自転車とかと接触したりもありますから、その辺を整理していただいて、やはり組織としてどのようにしていくのかっていうのを示していただけたらなと思います。以上です。

○幸川委員

ありがとうございました。では、これぐらいで意見交換を終わりたいと思いますが、田村委員は何かございますか。よろしいですか。では、これで意見交換を終了させていただきたいと思います。

では、部会長の方に戻します。

○中村（一）委員

幸川委員ありがとうございました。

それでは、続きまして、「報告1 区政に関する意見交換会の開催について」及び「報告2 その他」について、事務局から説明をお願いします。

○金田区政推進担当課長

委員の皆さま、お疲れ様でございます。

それでは報告1及び報告2につきまして、事務局より説明させていただきます。まず報告1ですが、お手元の資料3についてご説明させていただきます。

○保井区政推進担当課長代理

総務課の保井です。私の方から説明させていただきます。着座にて失礼いたします。

資料3もしくは、前方のスクリーンをご覧ください。

令和6年度より実施させていただいている「区政に関する意見交換会」についてです。区民わがことSDGsとして、生野区の将来ビジョンに掲げる基本理念としての「異和共生」の考えに則り、10番の「人や国の不平等をなくそう」を昨年度より選定しているところですが、今年度はこれからの生野区の未来を担う中学生を対象として、これまでSDGsに関して、学校で取り組んできたことや今後取り組んでいきたいことなど、自由で柔軟な発想や意見を聴収し、今後の行政としての施策、事業展開を検討していく参考とするため、意見交換会を開催したいと考えております。対象は、区内8中学校の生徒会役員の方を中心に、開催時期は中学生であることを鑑み、夏休みに実施する予定としております。報告1の説明は以上になります。

続きまして、資料4について、スライドが資料の方をご覧くださいと思います。報告2になります。先ほども少しお話しさせていただきましたが、各区における「区民わがことSDGs」の推進についても、2030年の目標年次を見据えて、区ごとの特性・実情と親和性の高いSDGsゴールに焦点を当てた普及・啓発に取り組むこととされております。つきましては、生野区としてのSDGsゴールの選

定を行う必要があることから、SDGs17 項目の中から、生野区の基本理念としての異和共生の考えに則り、令和 7 年度に引き続き、10 番の「人や国の不平等をなくそう」を選定することとします。SDGs のゴール選定にかかる説明は以上になります。どうぞよろしくお願いいたします。

○中村（一）委員

ありがとうございました。

ぜひ、中学生の意見交換会については、若い世代の方々の自由かつ柔軟な発想や意見を聴いていただいて、施策・事業に活かしていただければと思います。

それでは、その他事務局から何かございませんか。

○金田区政推進担当課長

総務課の金田です。

それでは最後に、本日いただいたご意見につきましては、7 月 14 日に開催されます全体会で部会報告いただき、他の部会の皆さまにも共有いただきます。部会報告の内容は、事務局にてひとまず整理いたしまして、本日進行を務めていただいた幸川委員と調整させていただきますので、よろしくお願いいたします。

また本日の意見交換会の時にお 2 人で話し合った場面につきましては録音もできませんでしたので、YouTube また会議録等からは削除させていただきますので、ご了解いただきたいと思います。

事務局からの報告は以上となります。よろしくお願いいたします。

○中村（一）委員

それでは本日の会議を踏まえまして齋藤区長から一言お願いします。

○齋藤生野区長

本日は本当に長い時間、活発な議論をしていただきまして本当にありがとうございました。

今回、私は初めての参加でしたので、どういう会議になるのかなと思いながら参加させていただいたのですが、様々なご意見をいただきまして本当に有意義な会議だったなと感じております。

というのは、まず今回 2 人ずつでお話し合いをした上で、どういう議論があったかということを発表いただいて、その意見に対してまた意見を言い合うという非常にクリエイティブで活発なお話し合いの仕方を工夫していただいたことが本当に良かったなと思います。お 2 人ずつでお話し合いをしている場面も見させていただきましたが、どなたも黙っているではなく、お互い共感のところを非常に大事にしながらお話し合いをしてくださっているのかなと思いました。具体的には、例えばホームページでの発信のお話だったり、担当者がコロコロ変わるからということだったり、「多言語表記をもう少し広げては」だとか、あと地域防災、見守りのことなど、もう本当にいろいろなご意見をいただいて、我々

はこれからそういったご意見を踏まえながらということにはなるのですが、今日の議論だけで終わるのではなく、一つの問題提起をしていただいたということでもあるのだと思うんです。短期的に実現できることもあれば、皆さまのお力を貸していただかないとできないこともあるでしょうし、役割分担の話もありましたが、それは「何とか安全なまちにしたい」だとか、「安心して過ごしていきたい」、「子どもたちの未来を確実なもの、夢を実現できるようなまちにしていきたい」だとか、そういったことに対しての熱い思いや危機感から出てきているものだと思います。その中にも例えば巽南の方で白いタオルを出して、「自分はもう安全だよ」ということを示すようなことをやっているんだよなど、今回の意見交換の中で一つの気づきを与えていただくことが、たくさんあったと思います。

ぜひ、今日いただいたご意見を私どもとしても、事業の改善や気づきに生かしていけないといけないなと考えておりますし、こういった形で区政会議の皆さまと何とか同じ方向性で取り組んでいきたいですし、やり方についての役割の議論もあるかと思えますけれども、あくまでそれは生野区を安全・安心なまち、より良いまちにしていくためのご意見をいただいたのだと思います。もちろん先ほども触れていただきましたけれども、区役所の体制も予算も限られたものの中で、どう優先順位をつけていくのか、どう役割を分けることがいいのか、手を携えていくのがいいのか、いろいろとあるかと思うのですが、そういった中で一緒にパートナーとしてこのまちを良くしていく、そのためにも今後とも、区政会議の皆さま方を中心に、ぜひお力添えをいただいて、私どもとして区政を推進してまいりたいなと考えております。

本日はどうもありがとうございました。

○中村（一）委員

ありがとうございました。

皆さま、円滑な運営にご協力いただきまして感謝を申し上げます。区政会議は、生野区の将来について、区民同士が率直に情報交換をし、意見を語り合える場です。令和8年7月14日には、全体会の開催が予定されておりますので、よろしくをお願いします。それでは、これにて「くらしの安全・安心部会」を終了します。皆さまお疲れ様でした。